

2012年2月8日

神戸市長
矢田立郎様

神戸地区労働組合協議会
議長青木昭憲

自衛隊艦船の神戸港入港に反対し、 便宜供与を行わないよう求める申し入れ

貴職におかれましては、市民生活の安全と安心のために、日夜ご奮闘をいただいていることに、心からお礼申し上げます。

私たち神戸地区労も憲法を暮らしにいかす運動を推進し、平和で安心して市民生活が営めるよう、非核都市宣言の議会陳情や市民による平和のモニュメントをつくる運動など、微力ながら今日まで努力を続けてまいりました。そして、憲法9条に違反する自衛隊については、日本が地震や台風などの自然災害が多発する国であることから、一部を災害救助を専門に担う専門の災害救助隊に改組して国内外で貢献できるようにすることを求めてきました。

40年ほど前には、市役所前で自衛隊パレードが行われており、私たちはこのような行事に反対して運動し、その後も『神戸まつり』への自衛隊参加に対して、「神戸まつりは市民の手作りのまつりであり、自衛隊の参加はその主旨に反する」と反対してきました。

しかし、自衛隊は「何とか市民社会に認知させたい」と、さまざまな機会を利用して市民生活の場に登場しようとしており、各地の祭りや市民行事の機会を捉えて精力的に広報を行っています。

そして今回、2月10～13日に海上自衛隊護衛艦『いせ』・『さざなみ』が神戸港に入港し防災訓練と一般公開を行うとのこと。今回の入港は神戸市・兵庫県・海上自衛隊合同での防災研修及び訓練と説明されていますが、海上自衛隊の広報は、「イベント情報」として、「海上自衛隊艦艇が、平成24年2月10日（金）から同年2月13日（月）の間、神戸港に寄港を予定しています。今回寄港する艦艇は護衛艦「いせ」及び護衛艦「さざなみ」です。」と報じ、11日（土）・12日（日）の第4突堤（ポートターミナル）での一般公開を案内しています。本来目的の防災研修にはただの一言も触れず、「一般公開」の宣伝をするばかりです。

10年ほど前になりますが、防災訓練で本来目的を逸脱した陸上自衛隊の参加に抗議の申し入れを行いました。学校を会場として全校児童の参加を求めた区の総合防災訓練でしたが、陸上自衛隊が受け持ったのは、「闇夜における人命救助」と称して、「暗くした部屋で暗視眼鏡を体験学習」することでした。災害時に市民が暗視眼鏡を使用することなどないにも関わらず、このようなことを防災訓練の名を借りてやらせるなど許されるべきことではありません。平和の尊さや戦争の悲惨さなどを子どもたちに教えなければならない学校現場で、それとはまったく反対に、児童の

興味を引く、戦争の武器を持ち出して体験学習とは何事でしょうか。

今回の防災研修・訓練がなぜ第4突堤（ポートターミナル）で実施され、終了後の翌日、翌々日に阪神基地ではなく同地で自衛艦の一般公開をさせるのか問題です。

私たちは、このような自衛隊利用の日常化は、戦争協力体制づくりの既成事実化であると強い懸念と危惧を持たざるをえません。

よって、私たちは、今回の自衛艦との防災訓練のあり方に疑問を呈するとともに、市民が平和で安心して働き暮らせる街・港を願い、神戸港への自衛艦などの寄港に反対すること、やむを得ない場合でも本来目的を逸脱することなく、休養・補給等最小限度に限り、一般公開や航海体験は認めないこと、そして市民行事への自衛隊参加や自衛官募集への便宜などを行わないよう強く要請いたします。

以 上